

1

解答解説のページへ

空間内の 1 辺の長さ 1 の正四面体 $OABC$ において、 $\overrightarrow{OA} = \vec{a}$ 、 $\overrightarrow{OB} = \vec{b}$ 、 $\overrightarrow{OC} = \vec{c}$ とし、 OA の中点を P とする。以下の問いに答えよ。

- (1) $0 < t < 1$ に対し、 BC を $t:(1-t)$ に内分する点を Q とする。また、 $PM+MQ$ が最小になる OB 上の点を M とし、 $PN+NQ$ が最小となる OC 上の点を N とする。このとき、 \overrightarrow{OM} と \overrightarrow{ON} を、それぞれ t 、 \vec{b} 、 \vec{c} を用いて表せ。
- (2) $\triangle QMN$ の面積を t を用いて表せ。
- (3) t が $0 < t < 1$ の範囲を動くとき、 $\triangle QMN$ の面積の最大値を求めよ。

2

解答解説のページへ

a を正の定数とする。条件 $\cos\theta - \sin\theta = a \sin\theta \cos\theta$, $0 < \theta < \pi$ を満たす θ について、以下の問いに答えよ。

- (1) 条件を満たす θ は、 $0 < \theta < \frac{\pi}{2}$ の範囲で、ただ 1 つ存在することを示せ。
- (2) 条件を満たす θ の個数を求めよ。

3

解答解説のページへ

以下の問いに答えよ。

- (1) 正の実数 a, b, c について、不等式 $\frac{\log a}{a} + \frac{\log b}{b} + \frac{\log c}{c} < \log 4$ が成立することを示せ。ただし、 \log は自然対数とし、必要なら $e > 2.7$ および $\log 2 > 0.6$ を用いてもよい。
- (2) 自然数 a, b, c, d の組で、 $a^{bc}b^{ca}c^{ab} = d^{abc}$ 、 $a \leq b \leq c$ 、 $d \geq 3$ を満たすものをすべて求めよ。

4

解答解説のページへ

a を $a > 2$ である実数とする。 xy 平面上の曲線 $C: y = \frac{1}{\sin x \cos x}$ ($0 < x < \frac{\pi}{2}$) と直線 $y = a$ の交点の x 座標を α , β ($\alpha < \beta$) とする。以下の問いに答えよ。

- (1) $\tan \alpha$ および $\tan \beta$ を a を用いて表せ。
- (2) C と x 軸, および 2 直線 $x = \alpha$, $x = \beta$ で囲まれた領域を S とする。 S の面積を a を用いて表せ。
- (3) S を x 軸のまわりに回転して得られる立体の体積 V を a を用いて表せ。

1

- (1) 折れ線の長さ $PM + MQ$ が最小になる OB 上の点 M は、右下図の正四面体 $OABC$ の展開図において、辺 OB と PQ の交点である。

すると、 $OM : MB = \frac{1}{2} : t = 1 : 2t$ より、

$$\overrightarrow{OM} = \frac{1}{2t+1} \vec{b}$$

また、 $PN + NQ$ が最小となる OC 上の点 N に対して、同様に考えると、 $ON : NC = \frac{1}{2} : 1-t = 1 : 2-2t$ となり、 $\overrightarrow{ON} = \frac{1}{3-2t} \vec{c}$ である。

- (2) まず、 $\triangle OBC = \frac{1}{2} \cdot 1^2 \cdot \sin \frac{\pi}{3} = \frac{\sqrt{3}}{4}$ から、

$$\triangle OMN = \frac{1}{2t+1} \cdot \frac{1}{3-2t} \triangle OBC = \frac{1}{(2t+1)(3-2t)} \cdot \frac{\sqrt{3}}{4}$$

$$\triangle BQM = \frac{2t}{2t+1} \cdot \frac{t}{1} \triangle OBC = \frac{2t^2}{2t+1} \cdot \frac{\sqrt{3}}{4}$$

$$\triangle CQN = \frac{2-2t}{3-2t} \cdot \frac{1-t}{1} \triangle OBC = \frac{(2-2t)(1-t)}{3-2t} \cdot \frac{\sqrt{3}}{4}$$

よって、 $\triangle QMN$ の面積を S とおくと、

$$\begin{aligned} S &= \frac{\sqrt{3}}{4} \left\{ 1 - \frac{1}{(2t+1)(3-2t)} - \frac{2t^2}{2t+1} - \frac{(2-2t)(1-t)}{3-2t} \right\} \\ &= \frac{\sqrt{3}}{4} \cdot \frac{-4t^2 + 4t}{(2t+1)(3-2t)} = \frac{\sqrt{3}t(1-t)}{(2t+1)(3-2t)} \end{aligned}$$

- (3) (2) より、 $S = \frac{\sqrt{3}t(1-t)}{-4t^2 + 4t + 3} = \frac{\sqrt{3}t(1-t)}{4t(1-t) + 3}$ となり、 $u = t(1-t) = -\left(t - \frac{1}{2}\right)^2 + \frac{1}{4}$

とおくと、 $0 < t < 1$ から、 $0 < u \leq \frac{1}{4}$ となり、

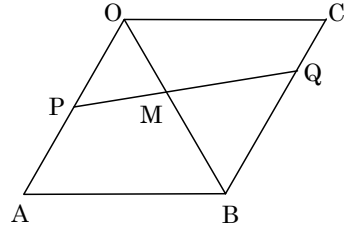
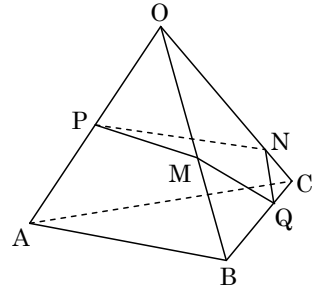
$$S = \frac{\sqrt{3}u}{4u+3} = \frac{\sqrt{3}}{4} \left(1 - \frac{3}{4u+3} \right)$$

よって、 $u = \frac{1}{4}$ ($t = \frac{1}{2}$) のとき、 S は最大値 $\frac{\sqrt{3}}{4} \cdot \frac{1}{4} = \frac{\sqrt{3}}{16}$ をとる。

[解説]

(3) は、普通に微分法を利用するという方法もありますが、分母・分子の形に注目して置き換えをしています。

問題のページへ



2

問題のページへ

- (1) $\cos\theta - \sin\theta = a \sin\theta \cos\theta$ ($a > 0$)……(*)に対して, $0 < \theta < \frac{\pi}{2}$ のとき,

$$a = \frac{\cos\theta - \sin\theta}{\sin\theta \cos\theta} = \frac{1}{\sin\theta} - \frac{1}{\cos\theta}$$

ここで, $f(\theta) = \frac{1}{\sin\theta} - \frac{1}{\cos\theta}$ とおくと, $f'(\theta) = -\frac{\cos\theta}{\sin^2\theta} + \frac{\sin\theta}{\cos^2\theta} < 0$

これより, $f(\theta)$ は単調減少し, $\lim_{\theta \rightarrow 0^+} f(\theta) = \infty$, $\lim_{\theta \rightarrow \frac{\pi}{2}^-} f(\theta) = -\infty$ より,

$a = f(\theta)$ すなわち(*)を満たす θ は, ただ 1 つ存在する。

- (2) まず, $\theta = \frac{\pi}{2}$ のとき(*)は成立しない。次に, $\frac{\pi}{2} < \theta < \pi$ において,

$$\begin{aligned} f'(\theta) &= -\frac{\sin^3\theta + \cos^3\theta}{\sin^2\theta \cos^2\theta} \\ &= \frac{(\sin\theta + \cos\theta)(\sin\theta \cos\theta - 1)}{\sin^2\theta \cos^2\theta} \\ &= \frac{\sqrt{2} \sin\left(\theta + \frac{\pi}{4}\right)(\sin 2\theta - 2)}{2\sin^2\theta \cos^2\theta} \end{aligned}$$

θ	$\frac{\pi}{2}$...	$\frac{3}{4}\pi$...	π
$f'(\theta)$		-	0	+	
$f(\theta)$		↘		↗	

また, $f\left(\frac{3}{4}\pi\right) = \sqrt{2} + \sqrt{2} = 2\sqrt{2}$, $\lim_{\theta \rightarrow \frac{\pi}{2}^+} f(\theta) = \infty$, $\lim_{\theta \rightarrow \pi^-} f(\theta) = \infty$ である。

したがって, $0 < \theta < \pi$ における(*)を満たす θ の個数は, (1)の結果も合わせると, $0 < a < 2\sqrt{2}$ のとき 1 個, $a = 2\sqrt{2}$ のとき 2 個, $a > 2\sqrt{2}$ のとき 3 個である。

[解説]

定数を分離した後, その定数の値に応じた解の個数を, グラフをイメージしながら求めていくという微分の応用についての典型題です。

3

問題のページへ

(1) まず, $f(x) = \frac{\log x}{x}$ とおくと,

$$f'(x) = \frac{1 - \log x}{x^2}$$

すると, $f(x)$ の増減は右表のようにな

x	0	...	e	...	∞
$f'(x)$		+	0	-	
$f(x)$	$-\infty$	\nearrow	$\frac{1}{e}$	\searrow	0

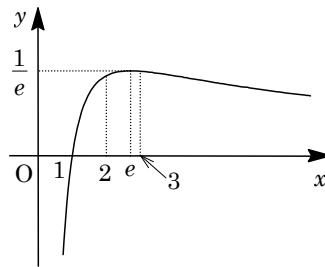
り, グラフの概形は右下図である。

これより, 正の実数 a, b, c について,

$$\frac{\log a}{a} + \frac{\log b}{b} + \frac{\log c}{c} \leq \frac{1}{e} + \frac{1}{e} + \frac{1}{e} = \frac{3}{e}$$

$$\log 4 - \frac{3}{e} = \frac{2e \log 2 - 3}{e} > \frac{2 \times 2.7 \times 0.6 - 3}{e} > 0$$

よって, $\frac{3}{e} < \log 4$ から, $\frac{\log a}{a} + \frac{\log b}{b} + \frac{\log c}{c} < \log 4$



(2) $a^{bc} b^{ca} c^{ab} = d^{abc}$ ($a \leq b \leq c, d \geq 3$) に対して, $\log a^{bc} b^{ca} c^{ab} = \log d^{abc}$ から,

$$bc \log a + ca \log b + ab \log c = abc \log d, \quad \frac{\log a}{a} + \frac{\log b}{b} + \frac{\log c}{c} = \log d$$

すると, (1)より $\log d < \log 4$ となり, d は 3 以上の整数より, $d = 3$ である。

$$\frac{\log a}{a} + \frac{\log b}{b} + \frac{\log c}{c} = \log 3 \quad (a \leq b \leq c) \dots \dots (*)$$

さて, (*) を満たす 1 組の整数解として, $(a, b, c) = (3, 3, 3)$ がある。

$$\text{ここで, } f(3) - f(2) = \frac{\log 3}{3} - \frac{\log 2}{2} = \frac{\log 9 - \log 8}{6} > 0 \text{ なので,}$$

$$0 = f(1) < f(2) < f(3) > f(4) > f(5) > \dots \dots$$

すると, $\frac{\log a}{a} + \frac{\log b}{b} + \frac{\log c}{c} \leq f(3) + f(3) + f(3) = 3 \cdot \frac{\log 3}{3} = \log 3$ となり, 等号

が成立する, すなわち(*)を満たす整数解は, $(a, b, c) = (3, 3, 3)$ のみである。

[解説]

(2)において, 1 組の整数解はすぐに目視でわかりますので, それ以外には存在しないという形式で記しています。 $f(x)$ のグラフが役に立ったわけです。

4

問題のページへ

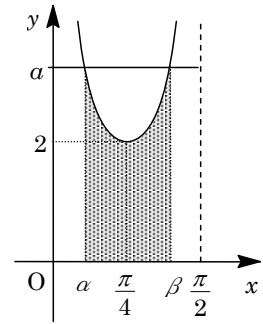
(1) $C: y = \frac{1}{\sin x \cos x} \left(0 < x < \frac{\pi}{2}\right)$ と $y = a$ を連立して,

$$a = \frac{1}{\sin x \cos x} = \frac{\sin^2 x + \cos^2 x}{\sin x \cos x}, \quad a = \tan x + \frac{1}{\tan x}$$

すると, $\tan^2 x - a \tan x + 1 = 0$ となり,

$$\tan x = \frac{a \pm \sqrt{a^2 - 4}}{2}$$

$$a < \beta \text{ から, } \tan \alpha = \frac{a - \sqrt{a^2 - 4}}{2}, \quad \tan \beta = \frac{a + \sqrt{a^2 - 4}}{2}$$



(2) C と x 軸, および 2 直線 $x = \alpha$, $x = \beta$ で囲まれた領域 S の面積を T とすると,

$$\begin{aligned} T &= \int_{\alpha}^{\beta} \left(\tan x + \frac{1}{\tan x} \right) dx = \int_{\alpha}^{\beta} \left(\frac{\sin x}{\cos x} + \frac{\cos x}{\sin x} \right) dx \\ &= \left[-\log |\cos x| + \log |\sin x| \right]_{\alpha}^{\beta} = \left[\log |\tan x| \right]_{\alpha}^{\beta} = \log \left| \frac{\tan \beta}{\tan \alpha} \right| \\ &= \log \left| \frac{a + \sqrt{a^2 - 4}}{a - \sqrt{a^2 - 4}} \right| = \log \frac{(a + \sqrt{a^2 - 4})^2}{4} = 2 \log \frac{a + \sqrt{a^2 - 4}}{2} \end{aligned}$$

(3) S を x 軸のまわりに回転して得られる立体の体積 V は,

$$\begin{aligned} V &= \pi \int_{\alpha}^{\beta} \left(\tan x + \frac{1}{\tan x} \right)^2 dx = \pi \int_{\alpha}^{\beta} \left(\tan^2 x + 2 + \frac{1}{\tan^2 x} \right) dx \\ &= \pi \int_{\alpha}^{\beta} \left(\frac{1}{\cos^2 x} - 1 + 2 + \frac{1}{\sin^2 x} - 1 \right) dx = \pi \int_{\alpha}^{\beta} \left(\frac{1}{\cos^2 x} + \frac{1}{\sin^2 x} \right) dx \\ &= \pi \left[\tan x - \frac{1}{\tan x} \right]_{\alpha}^{\beta} = \pi (\tan \beta - \tan \alpha) - \pi \left(\frac{1}{\tan \beta} - \frac{1}{\tan \alpha} \right) \\ &= \pi \sqrt{a^2 - 4} - \pi \left(\frac{2}{a + \sqrt{a^2 - 4}} - \frac{2}{a - \sqrt{a^2 - 4}} \right) \\ &= \pi \sqrt{a^2 - 4} - \pi \frac{-4\sqrt{a^2 - 4}}{a^2 - (a^2 - 4)} = 2\pi \sqrt{a^2 - 4} \end{aligned}$$

[解説]

(1)のポイントとなっている式変形には, いろいろな方法がありますが, 解答例では $1 = \sin^2 x + \cos^2 x$ を利用しています。また, (2)と(3)は, 三角関数の定積分の計算力が問われています。なお, C の概形については, $y = \frac{2}{\sin 2x}$ と変形して描いています。